

1 1月下旬の就職活動状況

2014年度
Vol.1

12月広報開始2年目となる2014年度就職戦線が、いよいよスタートを切った。今期の学生の意識や準備の状況はどうだろうか。日経就職ナビ・学生モニターを対象に、就職活動本番を間近に控えた11月下旬時点での就職意識および就職活動の状況などを聞いた。

1. 就職戦線の見方

○先輩たちより「非常に厳しくなる」6.9%、「やや厳しくなる」58.0%

2. 11月下旬時点での志望業界

○志望業界を「明確に決めている」18.7%。志望業界1位は「銀行」

3. 活動の中心とする予定の企業の規模

○「業界トップの企業」14.8%、「大手企業」27.5%、「中堅中小」12.1%

4. 就職活動準備に関して

○11月までに就活準備を始めた学生は77.3%。前年より20ポイント増

5. 合同企業セミナーへの参加予定

○93.8%が合同企業セミナーに参加予定。参加予定回数は平均4.6回

6. インターンシップの参加状況

○モニター全体の52.5%が参加経験あり。前年より8.3ポイント増加

7. SNSの利用に関して

○「普段からSNSを利用」87.1%。「就職活動にSNSを利用予定」48.4%

8. スマートフォンの保有状況

○保有率は86.8%。前年より13.1%増加

9. 就職活動に臨む心境

○「楽しみたい」76.6%、「早く終えたい」63.1%、「内定取れる自信ある」53.7%

《調査概要》

調査対象：2014年3月卒業予定の全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答数：1,784人（文系男子575人、文系女子550人、理系男子450人、理系女子209人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2012年11月22日～29日
サンプリング：日経就職ナビ2014就職活動モニター

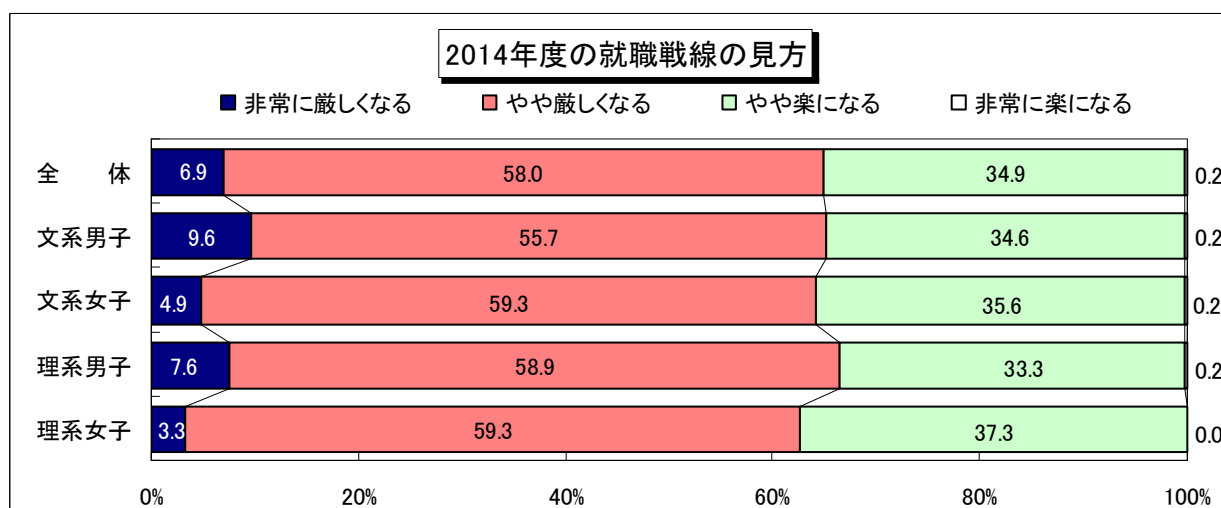
◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 就職戦線の見方

自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのか、見通しを聞いた。「非常に厳しくなる」「やや厳しくなる」の合計、つまり、より厳しくなると見ている人は64.9%。3人に2人はより一層の厳しさを覚悟しているようだ。しかし、前年度モニターに今年1月に聞いた調査では、「非常に厳しい」が20.8%、「やや厳しい」が64.1%であった。それに比べれば厳しいとの見方は緩和されている。今回は調査時期が11月と、本格的な就職活動をまだ経験していない段階での回答だったため、楽観的な見解となった可能性がある。次回（1月調査）でも同じ質問をする予定であり、その結果を待ちたい。

ちなみに、厳しくなると見ている学生の意見には、長引く不況に加え、中国リスク（日中関係の悪化）や大手製造業の大規模リストラなどから、企業の採用意欲が冷え込むのではと危惧する声が多く、逆に楽になると見ている学生は、12月解禁2年目で昨年の先輩よりは情報が多く、事前準備がしやすいこと、内定率が底を打ち回復傾向にあるらしいことなどを根拠に挙げていた。



■「非常に厳しくなる」と見る理由

○経済の後退や中国との関係の悪化などから、収益が落ちている企業が多く、採用数が減らされる可能性があるから。 <文系女子>

○ゼミの教授が「去年より厳しいだろう」と言っていたのと、団塊の世代が退職した分を補充する時期が終わったというニュースを見たので。 <文系男子>

■「やや厳しくなる」と見る理由

○日本を代表するような大企業が大きな赤字決算を受け、大量リストラなどを行っており、そのような日本経済下で就職活動が好転するとはとても思えない。 <文系男子>

○学校推薦の枠が昨年よりも少なくなると進路担当教授に言われたため。 <理系男子>

○リーマンショック時ほどではないが、震災、欧州危機など様々な出来事によって決して景気はいいとは言えないので。 <文系女子>

■「やや楽になる」と見る理由

○昨年度は12月解禁の最初の年だったが、今年は2年目となり、昨年度の企業の動向や先輩の体験談を参考にできるようになる。就活生のスケジュールにある程度の余裕が生まれると思われる。 <文系男子>

○一昨年の先輩に比べて、去年の先輩の方がやや就職率が回復していたので。 <文系女子>

○ニュースや新聞を見る限り、昨年度とあまり変わらないと思うが、中小企業の求人意欲が高まっていると思うため。 <理系男子>

2. 11月下旬時点での志望業界

11月下旬時点での志望業界の決定状況は、「なんとなく決めている」学生が最も多く63.2%。「明確に決めている」学生は18.7%だった。就職活動本番前でも2割弱は既に明確に決めていた。大学入学前から志望業界を決めて進学している学生もいるだろうが、早めに業界を絞って業界研究を進めたいあまりに、企業が採用広報を開始する前の限られた情報だけで安易に決めてしまっている学生もいる恐れもある。

志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「銀行」が27.6%で最も多く、以下「水産・食品」23.0%、「商社（総合）」20.0%と続く。採用数の少ない「商社（総合）」や「マスコミ」が上位にきており、イメージや憧れの域を出ていない印象だ。第1志望について、40業界を5つに統合してみると（下グラフ）、産業の幅が広い「製造業」が39.3%と最も多く、「IT」が6.7%で最も少なかった。

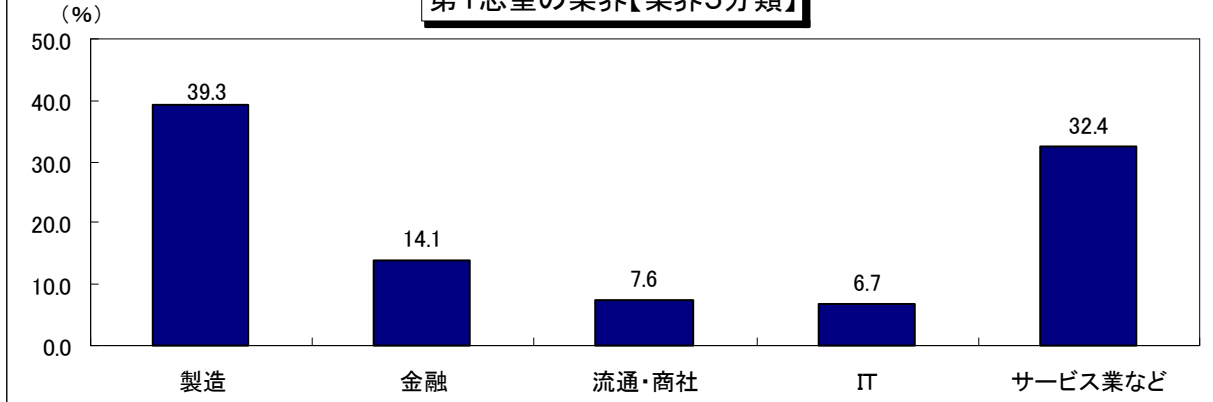
11月下旬時点での志望業界の決定状況

	(%)				
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	18.7	21.7	10.0	24.9	20.1
なんとなく決まっている	63.2	59.0	66.9	62.4	67.0
決まっていない	18.0	19.3	23.1	12.7	12.9

11月下旬時点での志望業界（上位10業界）

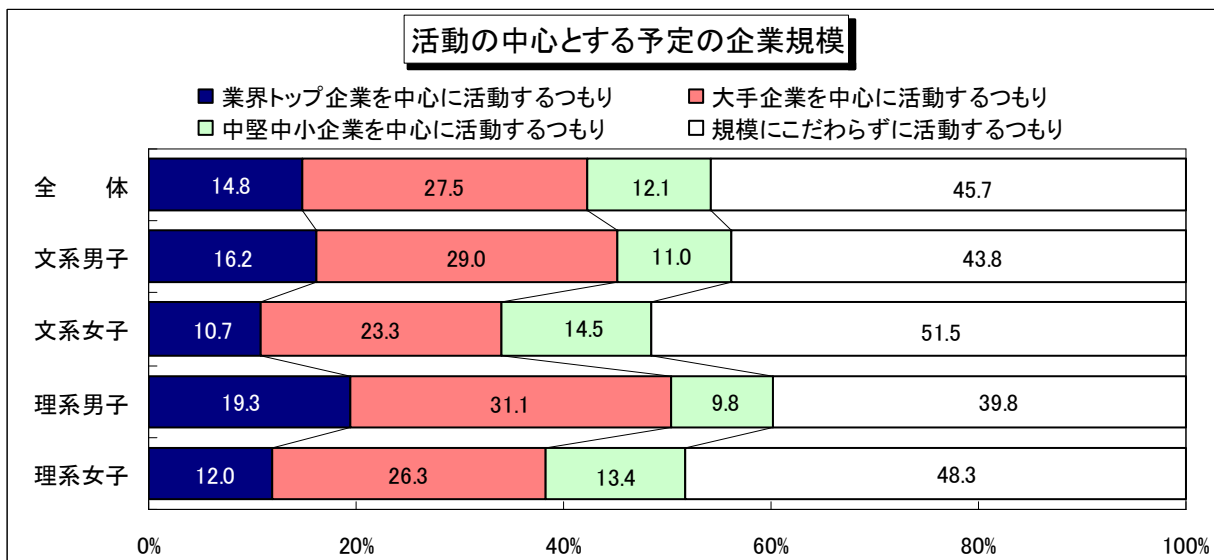
		※5つまで選択 (%)				
全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
1	銀行 27.6	銀行 41.8	銀行 35.7	電子・電機 30.8	医薬品・医療関連・化粧品 47.3	
2	水産・食品 23.0	商社（総合） 28.7	マスコミ 31.2	素材・化学 24.2	水産・食品 45.1	
3	商社（総合） 20.0	水産・食品 19.0	ホテル・旅行 24.8	エネルギー 22.4	素材・化学 30.8	
4	医薬品・医療関連・化粧品 18.7	マスコミ 18.5	水産・食品 22.7	医薬品・医療関連・化粧品 20.1	官公庁・団体 15.9	
5	マスコミ 18.5	運輸・倉庫 18.5	商社（総合） 22.0	機械・プラントエンジニアリング 19.8	商社（専門） 12.6	
6	素材・化学 15.4	商社（専門） 17.7	運輸・倉庫 15.8	自動車・輸送用機器 19.6	建設・住宅・不動産 12.1	
7	エネルギー 14.1	調査・コンサルタント 17.5	医薬品・医療関連・化粧品 15.6	水産・食品 17.8	銀行 11.0	
8	電子・電機 13.8	建設・住宅・不動産 15.1	信用金庫・労働金庫・信用組合 14.7	情報・インターネットサービス 17.6	商社（総合） 11.0	
9	調査・コンサルタント 13.8	エネルギー 14.4	商社（専門） 14.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 16.5	情報・インターネットサービス 11.0	
10	運輸・倉庫 13.3	保険 13.8	保険 13.5	精密機器・医療用機器 15.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.4	
					マスコミ 10.4	

第1志望の業界【業界5分類】



3. 活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする予定の企業規模を聞いたところ、全体では「業界トップの企業を中心に活動するつもり」14.8%、「大手企業を中心に活動するつもり」27.5%と、いわゆる「大手狙い」の学生が42.3%と4割を超えていた。ただ、それ以上に「規模にこだわらずに活動するつもり」が多く、45.7%に上っている。企業選びの軸を企業規模に求めない層が大半を占めた。とりわけ女子に「規模にこだわらずに活動」と答える割合が高く、男子は「業界トップ」「大手企業」の割合が女子に比べ高かった。



■「業界トップ企業」を中心に活動する理由

○トップ企業なりのノウハウ、環境、人脈、人的資本のもとで、キャリアの最初の段階を過ごしたいから。

<文系男子>

○福利厚生がしっかりしており、女性が働く環境がととのっていいから。

<文系女子>

○なるべく大きな舞台上で大きな仕事をしたいため。また、大きい会社ほど多くのことを手掛けているので、携われる仕事の幅（経験できる世界）が広いと思うから。

<理系男子>

■「大手企業」を中心に活動する理由

○あらゆる業界のトップ企業だけを受けるのは、業界研究の手間が増えるだけでしかもその深度も浅くならざるを得ず、合理的ではない。志望業界を絞り、その業界とそれに隣接する関連業界の上位企業を受けたほうが効率も良く、採用につながると思う。

<文系男子>

○中小は後になっても割と募集すると聞くので、初めは大手企業を狙って活動したいと思う。

<理系男子>

○中小企業に比べて給料が高いことが魅力。名前の知られた企業で働くことに魅力を感じる。

<理系女子>

○大手企業に入れるチャンスは新卒を逃すともうないと思うので、大手企業を優先して受けていきたい。

<文系女子>

■「中堅中小企業」を中心に活動する理由

○大手企業を受けないわけではないが、中小企業の方が内定をもらいやすいと思われるため。あまり大手企業に期待を持たないで受けた方が、精神的に負担が少なそうだから。

<文系女子>

○中小企業のほうが人数も少ないので、一人あたりの責任も増え、逆に一人一人の価値も重くなると思うから。

<文系男子>

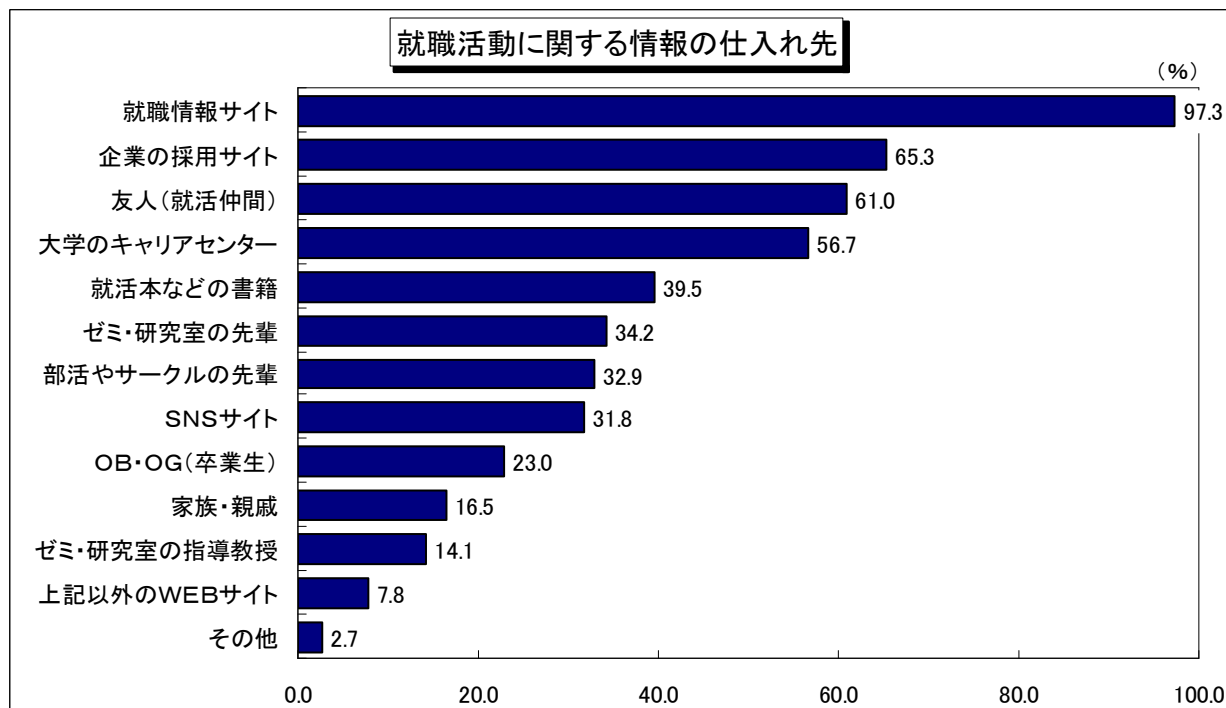
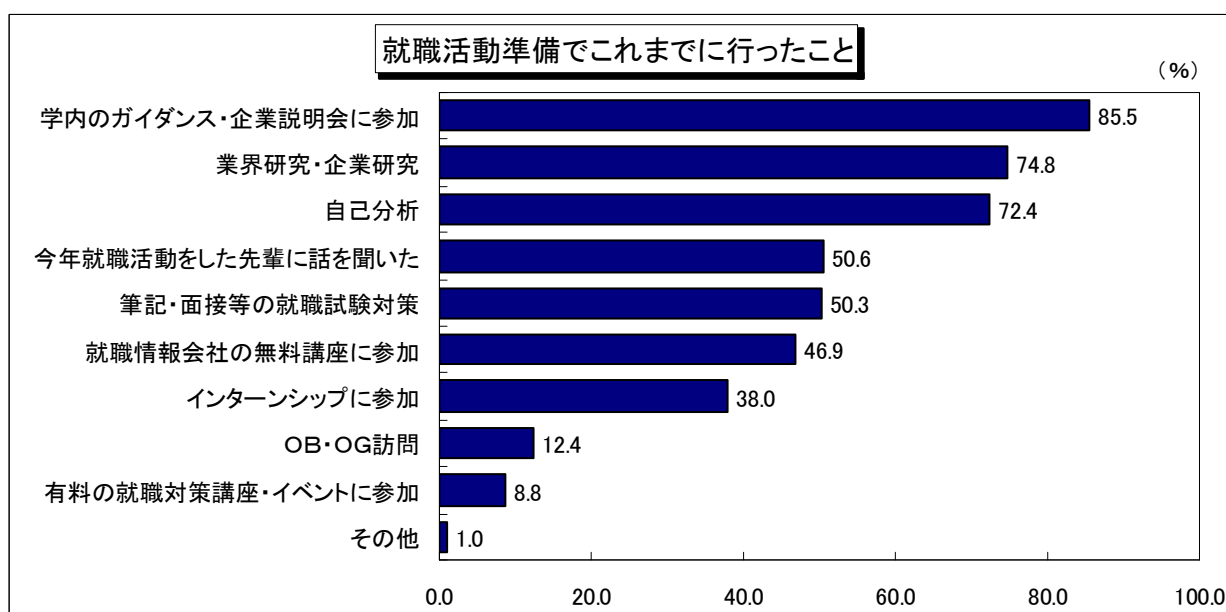
○中小企業へのインターンシップを通して、中小企業はひとりで様々な業務をすることができることと分かり、そのようにさまざまなことができる人間になりたいと思ったから。

<理系男子>

4. 就職活動準備に関して

11月下旬時点で就職活動の準備を始めていた学生は77.3%と、前年の57.9%より約20ポイント増えた。今年就職活動をした先輩たちを見て、12月から準備を始めたのでは遅いと思ったのだろうか。但し、準備として行った内容を見ると、「学内のガイダンス・企業説明会に参加」が最も多いなど、具体的な対策や行動というよりは情報収集が中心であったようだ。

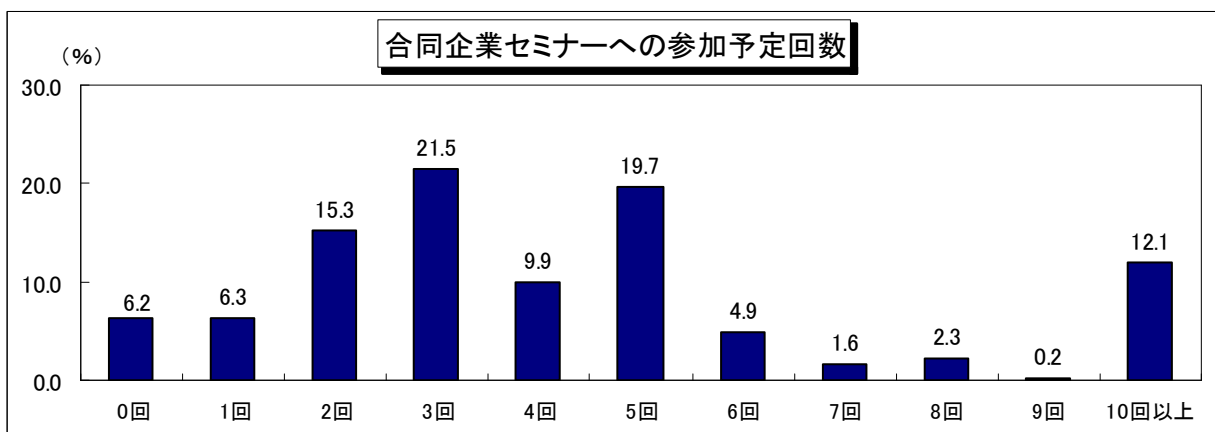
一方、就職活動に関する情報の仕入れ先で最も多いのは「就職情報サイト」。97.3%と9割以上が回答した。調査時点では、どのサイトもグランドオープン前であったが、プレサイトも学生にとって大きな情報源であったことが分かる。「企業の採用サイト」が65.3%で続き、採用広報開始前であっても6割の学生が閲覧していた。個人情報を取得しなければWEB上での情報発信は倫理憲章上問題なく、12月より前にある程度の情報を提供するメリットは高かったと見られる。



5. 合同企業セミナーへの参加予定

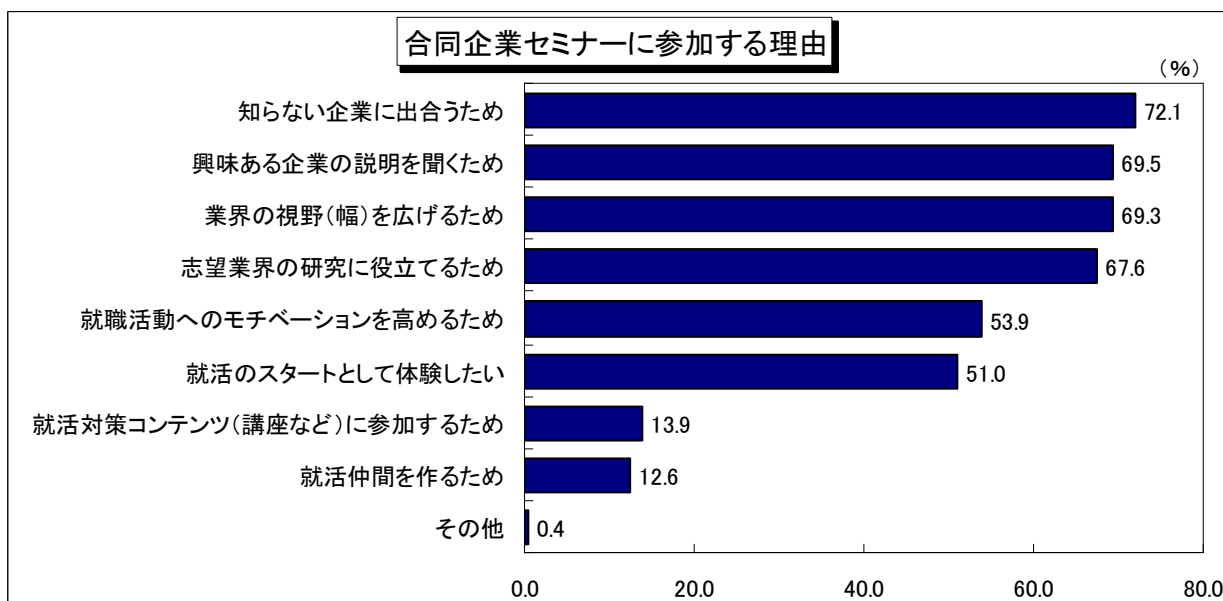
就職活動のスタートと同時に多数開催される合同企業セミナー（就職情報会社主催）。参加予定回数を聞いたところ、「0回」つまり1度も足を運ぶ予定はないという人は6.2%と少数派で、残りの93.8%は参加する予定と回答した。予定している回数は、平均で4.6回。就職活動に積極的なモニター学生であることを差し引いても、結構多いと見てよいのではないだろうか。分布を見ると、最も多いのが「3回」の21.5%で、「10回以上」という人も12.1%と1割を超えている。

合同企業セミナーの参加予定回数を、3 ページで確認した「志望業界の決定状況」とクロスしてみた。「志望業界が明確に決まっている」と回答した人の平均回数は4.4回、「なんとなく決まっている」が4.7回、「決まっていない」4.3回と、差はあまり見られなかった。一口に合同企業セミナーと言っても業界別や専攻別など多様化しており、その学生のおかれている状況によって参加するセミナーも違ってくる。志望業界の固まり具合に関係なく平均4~5回というのが相場となってくるのだろう。



合同企業セミナーの参加予定回数(志望業界決定状況別)

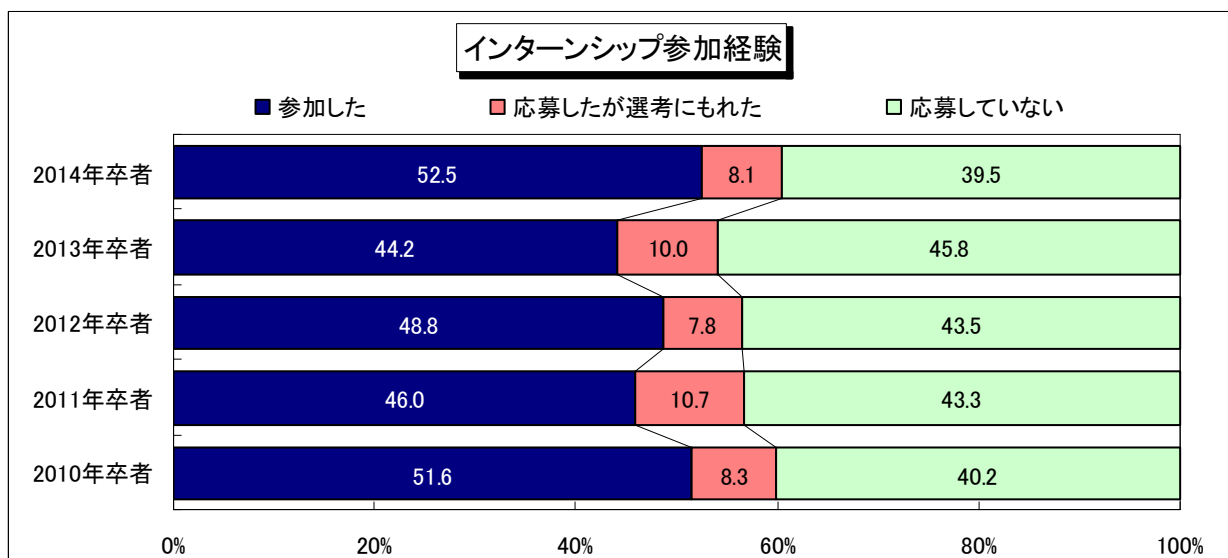
	全体	志望業界が明確に決まっている	志望業界がなんとなく決まっている	志望業界が決まっていない
参加予定回数 (平均)	4.6	4.4	4.7	4.3



6. インターンシップの参加状況

倫理憲章の見直しを受け、昨年はインターンシップ実施企業が減り（とりわけ1-dayなどのショートプログラムが激減）、それに伴い参加学生も減少したが、今期はモニター全体の60.5%がインターンシップへの応募経験をもち、関心の高さがうかがえる。実際に参加できた学生は52.5%と、前年より8.3ポイント多い。見直し2年目で企業側の受け入れ準備も昨年よりは円滑だったのだと思われる。平均参加社数は、1-dayを含むショートプログラムで2.4社、倫理憲章の条件を満たす5日間以上のプログラムで1.4社。ショートプログラムへの参加増が目立つ。

2013年度の採用では、学生の業界理解、企業理解不足が指摘された。就職活動期間の短縮が主要因と見られるが、インターンシップのあり方が厳格化され、参加学生が減ったことも遠因だろう。インターンシップは、職業体験を通して職業観を涵養するという本来の目的だけでなく、業界研究・企業研究の格好の場としても機能しており、今後実施企業が増えれば、学生の理解不足もある程度補える可能性がある。



インターンシップ参加社数【1~4日間のインターンシップ】

	全体	前年全体	前々年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
平均	2.4	1.8	3.0	2.7	2.2	2.4	1.9
1社	49.6	62.2	41.2	48.0	45.9	58.1	51.4
2社	22.7	19.9	23.6	17.8	27.3	21.0	27.0
3社	10.5	9.4	11.3	10.9	10.9	9.5	9.5
4社	6.2	2.9	6.5	6.9	7.7	1.9	6.8
5社	5.5	3.1	6.9	7.9	4.9	1.9	5.4
6社以上	5.5	2.4	10.4	8.4	3.3	7.6	0.0

*「前々年」は、「1~2日間のインターンシップ」として調査

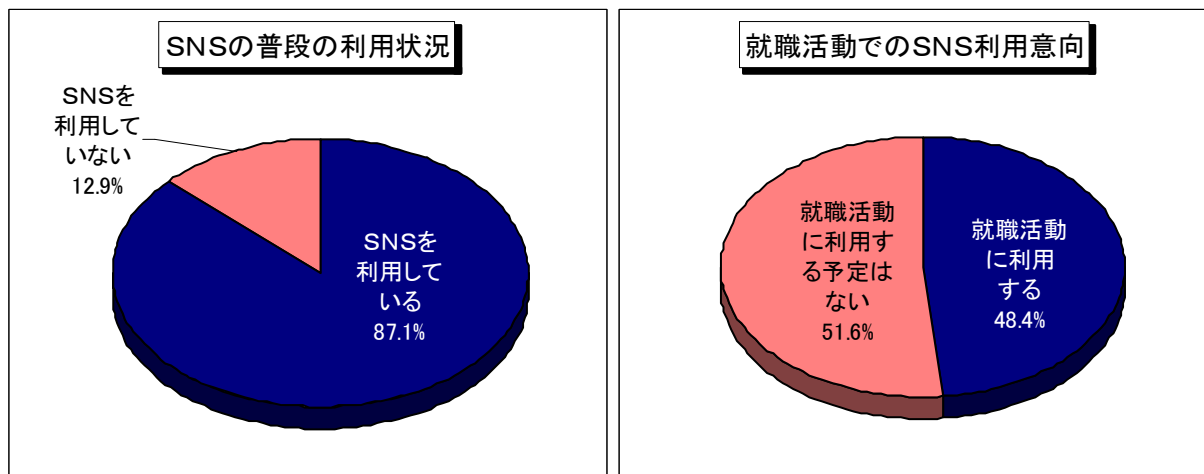
インターンシップ参加社数【5日間以上のインターンシップ】

	全体	前年全体	前々年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
平均	1.4	1.3	1.3	1.5	1.4	1.4	1.2
1社	73.6	78.6	77.9	70.8	74.8	70.3	84.0
2社	18.0	16.5	16.4	16.7	18.9	20.0	14.7
3社	5.2	2.2	3.9	6.8	3.9	6.9	1.3
4社	1.5	0.9	0.6	2.1	1.0	2.1	0.0
5社	1.0	1.3	0.9	1.6	1.5	0.0	0.0
6社以上	0.8	0.4	0.3	2.1	0.0	0.7	0.0

*「前々年」は、「3日間以上のインターンシップ」として調査

7. SNSの利用に関して

フェイスブックやツイッターなどのSNSを普段から利用している人は87.1%。多くの学生にとってかなり身近なツールとなっている。しかしながら、就職活動での利用、いわゆる「ソー活」をするのは半数に満たない。就職活動でSNSを利用予定の学生に利用方法を尋ねると、「企業が発信する情報の閲覧」が86.7%と最も多く、「企業との直接的コミュニケーション」まで考えている学生は16.0%と少数派だ。多くの学生にとって就職活動におけるSNSは、コミュニケーションツールというよりは、メディアの1つとして捉えている段階のようだ。

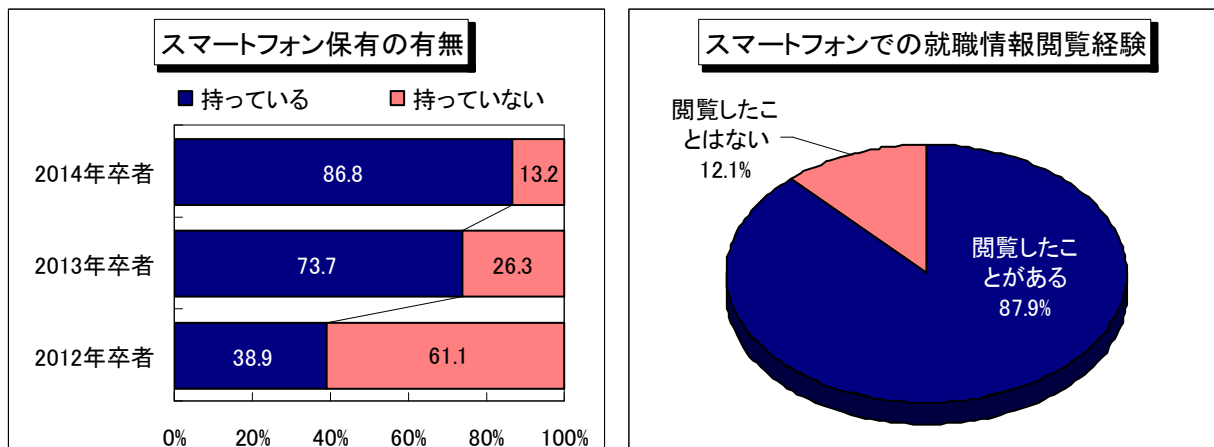


就職活動でのSNS利用方法

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
企業が発信する情報の閲覧	86.7	84.6	89.3	85.6	86.5
就職活動に関する情報交換	67.4	70.2	65.0	66.9	67.4
企業との直接的コミュニケーション	16.0	16.7	13.6	18.8	16.9
OB・OG訪問の相手探し	14.1	15.7	14.2	10.6	14.6
その他の用途	1.5	2.0	1.3	1.9	0.0

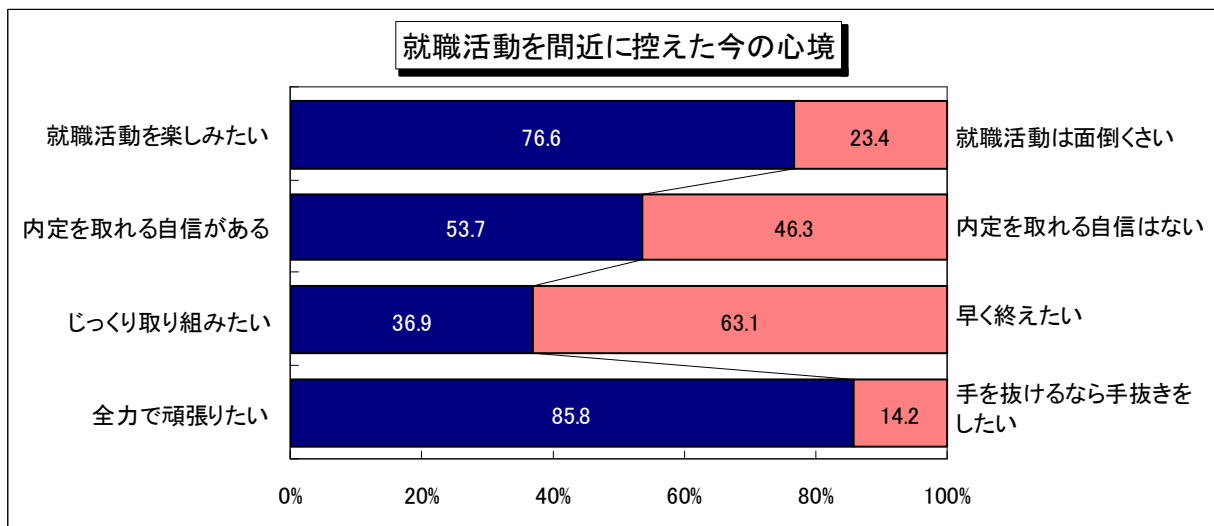
8. スマートフォンの保有状況

スマートフォンの保有率は前年調査より一層伸び、86.8%と8割を優に超えた（前年は1月調査）。スマートフォンを使えば外出先からのセミナーや選考試験などのWEB予約もスムーズに行える。自宅や学校のパソコンの前に張り付いたり、友達や家族に代わりに予約してもらったりといった事態も回避でき、数年前のような混乱は少なくなるだろう。外出先でのセミナー動画の閲覧もしやすい環境にあると言える。



9. 就職活動に臨む心境

就職活動を間近に控えた11月下旬の心境を、相反する2項目のどちらかを選ぶことで率直に回答してもらった。まず就職活動への姿勢は、「楽しみたい」76.6%、「面倒くさい」23.4%と、前向きな学生が多数を占めた。内定取得については「自信がある」と「自信はない」が拮抗。期間は、「じっくり」36.9%、「早く」63.1%と、短期決戦を望むほうが多い。就職活動の長期化は学業への支障や、金銭的な面からも決して好ましいとは言えず、多くの学生は「手抜きをする」(14.2%)のではなく「全力で頑張る」(85.8%)ことで、短期集中で取り組もうと考えているようだ。



■就職活動に関して思うこと

- 自己分析ができていないと、面接や履歴書、エントリーシートでつまづくとよく聞くので、しっかり取り組んでいきたいと思う。 <文系男子>
- まだ12月になっていないが多くの人が就職活動を意識して過ごしている。大学生活で一番頑張ったことが就職活動になるのではないかと不安です。 <文系女子>
- ガイダンスでキャリアセンターから、「夏までに内定を取ろうとは思わない方がよい」と言われたが、夏までに取ろうというくらいの気持ちを持っていないと、内定が取れないと思っている。 <文系男子>
- 友人同士ではナイーブな話題のため、情報交換がしにくくて困っている。 <理系女子>
- 普段は責任感もないし、人間性も全然よくないのに、一流企業から内定をもらっている先輩を見ると、人事は何をやってるんだ、と思う。 <文系男子>
- 自分はインターンに積極的に応募・参加している方だと思う。インターンが、内定に近づくカギとなるのか全く関係ないのか、企業の本音が見えず不安な思いをしている。 <文系女子>
- 企業の研究をしっかりしても、会社に入ってみたらイメージと違ったり、部署ごとに雰囲気の違いもみなかったことが必ずあると思うと、企業研究をどの程度すべきなのかわからない。 <理系男子>
- 複数の会社から内定をもらえる人とまったくもらえない人の二極化が起こっているとよく聞くので、なんとしても前者のグループに入りたい。 <文系男子>
- スーツのボタンがいくつであるとか、ブラウスの襟のタイプを職種によって使い分けるとか、正直そこで合否が決まるとは思えないようなことにも気を使う必要があるのだろうか。 <理系女子>
- 噂や都市伝説に振り回されている人が多い。みんな不安と闘っている。 <文系男子>
- 受かる自信があったところに落とされたり、落ちたと思ったら受かっていた！という話をよく耳にするので、そういう奇跡的なものも信じて頑張りたいと思う。 <文系女子>
- 内定を取れる自信はないけれども、自分の視野を広げてこれからの人生で後悔のないように精一杯判断し乗り越えていきたいと思う。 <理系男子>